



安全へ「選択と集中」。レッドゾーン戦略のもと、

そうぜん

崇善小学校前交差点の対策に着手します。

国道1号 平塚市崇善そうぜん小学校前交差点の交通事故対策工事着工のお知らせ。

記者発表資料

国土交通省横浜国道事務所では、死傷事故率の高い箇所の対策を集中的に行う「**レッドゾーン戦略**」に基づく交通事故対策工事に7月中旬から着手します。

対策工事を行う国道1号平塚市崇善そうぜん小学校前交差点（平塚市明石町）は、**死傷事故率が616.7件/億台km**で、この値は昭和40年代の「**交通戦争**」の頃の事故率を上回っています。

崇善そうぜん小学校前交差点での事故の特徴は、関係者で調査すると**半数が自転車**であり、内容で調査すると**全体の半数を出会い頭と左折時の事故**が占めています。

昨年11月21日（火）に平塚市交通安全総点検（主催：平塚市）と合同で地元自治会、小中学校、行政などと実施した現地診断では、「崇善そうぜん小学校前交差点の小学校側にある歩道のコーナーは見通しが悪い。」や「植え込みや案内板が視界を遮っているため、見通しが悪い。」といった**ヒヤリの声**も頂いています。

崇善そうぜん小学校前交差点は「交通安全見える化プラン」（神奈川県安全性向上委員会）で要対策箇所として位置づけられています。今回の工事では事故の分析結果や地元の意見を元に、「植え込みの撤去」や、「注意看板の設置」、「停止線の位置変更」等を行います。

工事期間は7月中旬から約2週間を予定しています。工事は昼間に行い、車線の規制を伴います。ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願い致します。

平成19年7月11日

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会
神奈川県政記者クラブ 平塚記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所

計 画 課 長 土肥 学（内線 301）

交通対策課長 星野 豊（内線 471）

電話 045-311-2981（代表）

■ 対策の概要

【右折事故対策：走行ラインをわかりやすくします】

- ・ 右折指導線の改良

【左折事故対策：見通しを良くしドライバーに注意を促します】

- ・ 植え込みの撤去
- ・ ガードレールから見通しの良い防護柵（ガードパイプ）に交換
- ・ 自転車注意の看板を設置

【出会い頭事故対策：左右の見通しが良くなるとともに車のスピードを落とします】

- ・ 停止線の位置を前に移動

【対策のイメージ】

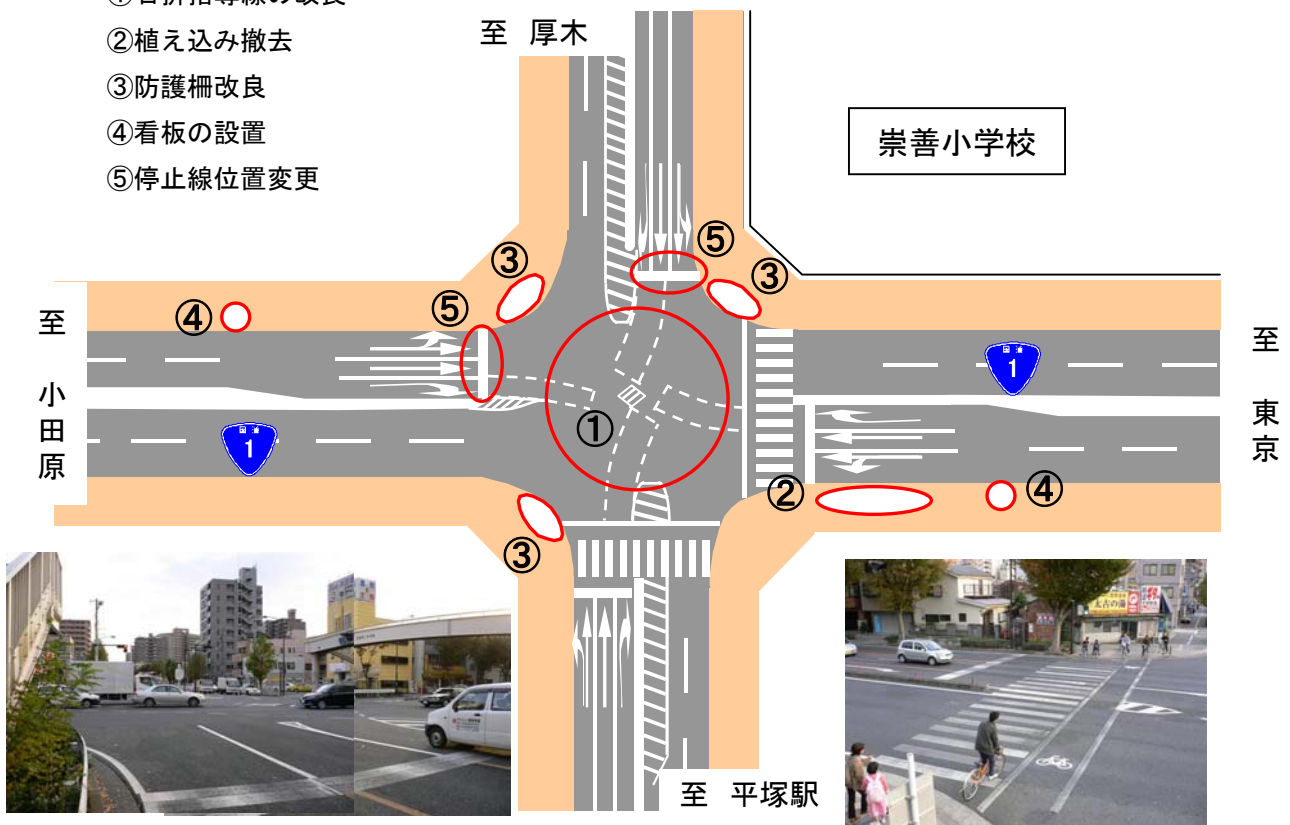
①右折指導線の改良

②植え込み撤去

③防護柵改良

④看板の設置

⑤停止線位置変更



【対策の概要図】

看板の設置



車両に対して注意喚起することにより、自転車巻き込み事故を防止します。

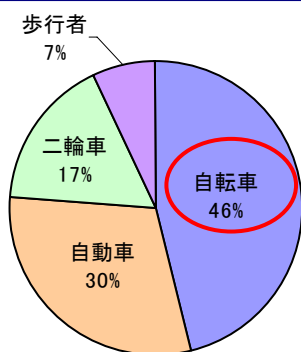
右折指導線の改良



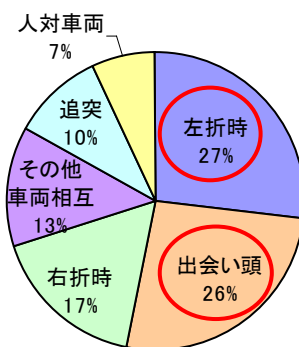
右折車の走行位置を安定化させ、右折による事故を防止します。

■ 事故の特徴

- ◆自転車の事故が半数を占めています。
- ◆出会い頭、左折時の事故が全体の半数を占めています。



事故の関係者



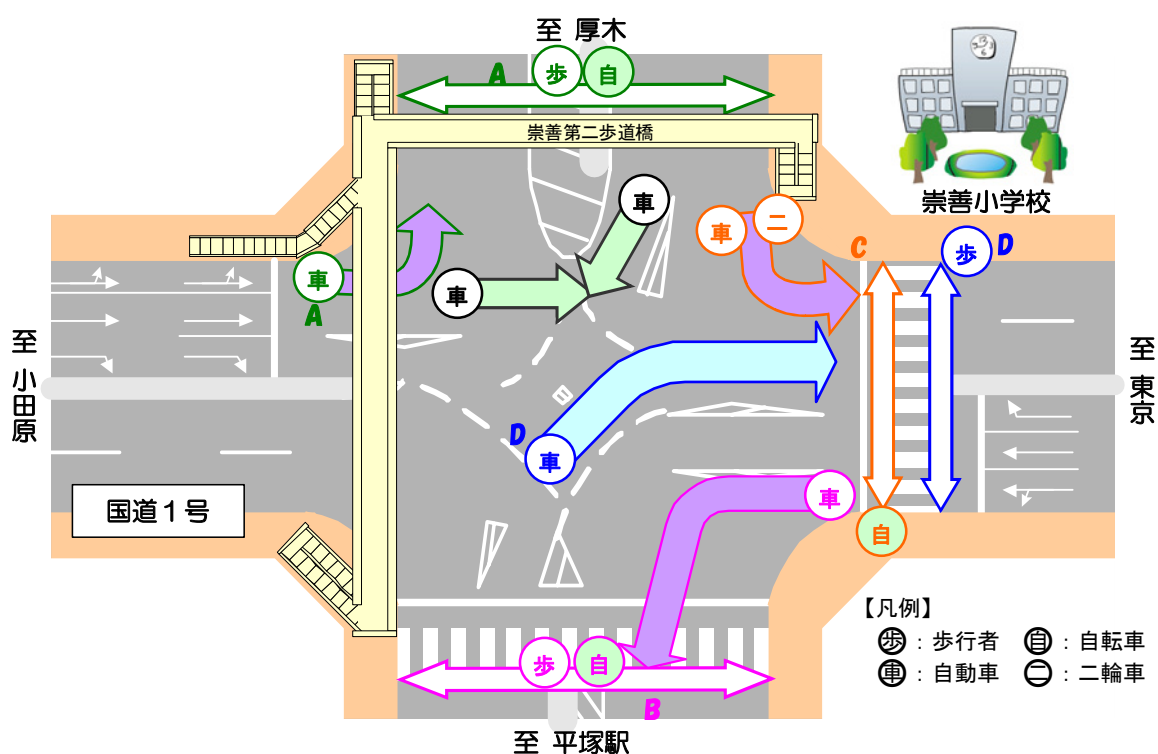
事故の種類

案内図(神奈川県平塚市明石町)



〈地域のヒヤリの声〉

- A 小田原方面から左折しようとした際、歩行者・自転車と接触しそうになりヒヤリとした。
- B 交差点の横断歩道を渡っている時、急に左折する車が来たのでヒヤリとした。
- C 厚木方面から東京方面へ左折する時、横断歩道があると思わなかったので、横断中の歩行者にヒヤリとした。
- D 平塚駅方面から東京方面に右折する際に、歩行者信号が赤なのに歩行者が横断し、ヒヤリとした。



【参考】

道路行政は選択と集中へ



レッドゾーン戦略 — 「必要な道路」に重点投資

「交通戦争」の頃のような危険な状態にある道路(レッドゾーン)が残っています。

- S45年の交通事故死者数は1万7千人で、「交通戦争」という言葉が使われました。
- その頃、車が1億km走る間に平均で300件の事故が発生していたことになります。
- 現在は100件まで下がってきましたが、今でも欧米と比較すると高い状況です。
- 交通戦争の頃のように300件を超える区間(レッドゾーン)が全国の国道と都道府県道(18万km、93万区間)に、まだ約5%存在します。

レッドゾーン・イエローゾーン以外の区間では、原則として事故対策事業を実施しません。

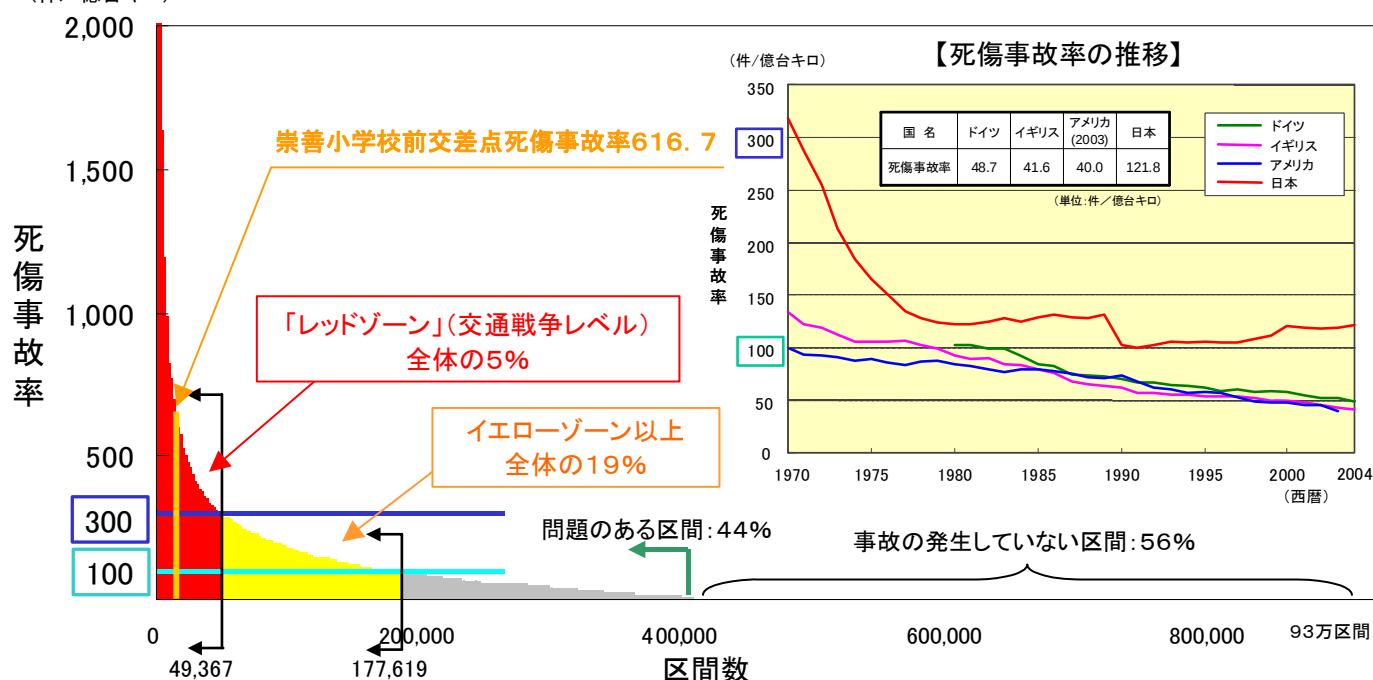
- わずか5%の区間のレッドゾーンに、死傷事故の25%が集中しています。
- この区間に集中して対策することが、事故率の低減に直結すると考えました。
- また、100件を超える区間(イエローゾーン)も含めた19%の区間に死傷事故の67%が集中しています。

レッドゾーンに集中して対策を実施します。

- 関東地整で、平成19年度に交通事故対策の事業を行うのは226箇所。予算(交通事故重点対策事業費)の総額は約156億円です。
- 226箇所中、99%の箇所が、レッドゾーン・イエローゾーンの区間に該当し、ここに予算の98%を投入します。
- 特に、レッドゾーンの区間に、箇所の67%が該当し、予算の65%を充てることにしています。

車が1億キロ走行して発生する平均事故件数
(件/億台キロ)

全国(国道・都道府県道)の死傷事故率の状況



※全国の国道・都道府県道18万kmにおける4年間(H13~H16)の事故データから作成